

ID No.	2035
研究課題名	新規オートファジー制御メカニズムを基盤とする乳がんの診断および治療戦略
研究代表者	太田 智彦 (聖マリアンナ医科大学・教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	中西 真 (東京大学医科学研究所・教授) 呉 文文 (聖マリアンナ医科大学・講師)
<p>研究報告</p> <p>1) 高リスク Luminal A 乳がんバイオマーカーとしての遺伝子産物 X の有用性の証明 聖マリアンナ医科大学病院において手術を施行されたエストロゲンレセプター陽性 HER2 陰性の原発性乳がん 163 例の遺伝子産物 X の免疫染色を行い、臨床病理学的因子および予後との相関を検討した結果、遺伝子産物 X 陰性群は有意に再発率が高く、Ki-67 より強い独立した予後因子であることが判明した。</p> <p>2) 診断キットの作成 遺伝子産物 X に対するモノクローナル抗体を作製し、30 例の乳がんにおける免疫染色にて、最も感度と特異性が高い至適抗体を選別した。</p> <p>3) 遺伝子産物 X 発現抑制による内分泌療法抵抗性メカニズムの解明 遺伝子産物 X がリジン脱メチル化酵素を特異的にユビキチン化することと、このユビキチン化がエストロゲンレセプターによって促進されることを解明した。</p> <p>4) 遺伝子産物 X は乳がんの中でも特に小葉がんにおいて、その発現が抑制していることが判明し、小葉がんのタモキシフェン感受性を左右する可能性がある。</p>	